

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 16 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03388

研究課題名(和文) 20世紀アメリカ経済思想における自由社会構想の系譜

研究課題名(英文) A Genealogy of concepts of Liberal Society in the 20th century American economic thought

研究代表者

佐藤 方宣 (Sato, Masanobu)

関西大学・経済学部・教授

研究者番号：90286609

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、20世紀アメリカの経済学者たちが展開した「市場経済」と「社会正義」をめぐる論議を、「自由な社会の条件とは何か」という問いをめぐる議論の系譜に位置づけ直し、その歴史的意義と現代的な含意を明らかにした。特に従来はそれぞれが異なるタイプの自由主義に与するとされてきた、フランク・ナイトとジョン・ロールズの知的影響関係に注目し、市場経済の規範的評価の内実やその背景にある自由や討議をめぐる考察の共通点や相違を明らかにすることで、20世紀アメリカにおける自由社会構想の系譜について、従来とは異なる新しい理解を提示することが出来た。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project was to consider the controversy over "market economy" and "social justice" developed by economists of the 20th century America, and to re-position it in the genealogy of the idea of a free society.

Especially focusing on Frank Knight and John Rawls, each of which has been thought to contribute to a different type of liberalism, we compare their views on market economy, freedom and discussion, and clarify details of the common points and differences of their views.

研究分野：経済思想

キーワード：経済思想 社会思想 経済哲学 経済学史

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクト「20世紀アメリカ経済思想における自由社会構想の系譜」は、特定の人物を対象とした思想研究や学説史的研究ではなく、問題史・主題先行的な観点に立った総合的な思想研究のスタンスに立ち、20世紀アメリカの経済学の展開を「自由社会構想の系譜」という観点から解明しようとするものである。この研究プロジェクトの背景には、近年のアメリカ経済学史研究における国際的な動向と、申請者が近年進めてきた一連の研究があった。

近年の英語圏のアメリカ経済学史研究は新しい段階を迎えている。先駆的な業績である Morgan, M. S. and M. Rutherford(eds.), *From Inter War Pluralism to Postwar Neoclassicism* (Duke University Press, 1998.) に収録された多彩な論文に見られるように、20世紀初頭のアメリカ経済学に方法的・思想的な多様性と多元性が見られることは、すでに共有認識になりつつある。Yuval Yonay, Dorothy Ross, William Barber, Malcolm Rutherford, Ross Emmett といった代表的研究者たちの成果によって、旧来のアメリカ経済学史をめぐる「通念」(一貫してゆるぎない主流派としての新古典派像や、制度派の存在の矮小化など)の問い直しが進み、従来の学説史的研究スタイルとは異なる思想史的な観点からの研究スタイルが一般化しつつある。こうした新しい動向を Ross Emmett は「近年の修正派の挑戦」と評したが、こうした研究動向のなかから、制度経済学をひとつの「思想運動」として捉える Malcolm Rutherford, *The Institutional Movement in American Economics, 1918-1947: Science and Social Control* (Cambridge University Press, 2011) といった、近年のアメリカ経済思想史研究の重要な成果が生まれてきた。

申請者自身もこれまで、こうした動向に棹差す方向で、「経済と倫理」という主題に焦点をあてるかたちで、フランク・ナイトやジョン・モーリス・クラークといった20世紀前半のアメリカの経済学者たちの思想的側面や、ビジネス・エシックスをめぐる言説の歴史的展開について、同時代の歴史的な文脈のなかでその含意を明らかにする研究を進めてきた。

このような今回のプロジェクトに先立つ一連の研究動向において、20世紀のアメリカ経済学史を、単なる市場経済のメカニズムの解明を目指す市場の論理の分析の系譜ではなく、市場経済の規範的評価を含めた市場の倫理の分析の系譜として理解すべきであることが明らかになりつつある。こうした動向をふまえ、20世紀のアメリカ経済思想に対し「自由社会構想の系譜」という一貫した観点からアプローチすることを試みたのが、本研究プロジェクトである。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトの目的は、20世紀アメリカの経済学者たちが展開した「市場経済」と「社会正義」をめぐる論議を、「自由な社会の条件とは何か」という問いをめぐる自由社会構想の系譜のなかに位置づけ直し、総合的に検討することを通じて、その歴史的評価と現代的な含意を明らかにすることを目的とするものである。

本研究の特色としては、自由社会構想の系譜という独自の視点から20世紀のアメリカ経済学の思想的基礎を検討するという新しい研究主題の提示の試みに留まらず、それを通じて20世紀のアメリカ経済思想を、政治思想・政治哲学・倫理学といった隣接諸領域での「自由主義」をめぐる論議に接続して論じ直そうという、領域横断的なアプローチをとる点が挙げられる。

3. 研究の方法

以上に記した本研究プロジェクトの目的を実現するための方法として、主に以下の3点について、関連テキストの渉獵と分析、そしてそれに基づく国際セミナーを含む研究会での研究報告と議論を行った。

(1) 20世紀アメリカの「リベラル派」を代表する制度派経済学者たちの市場経済評価と自由社会構想を明確化し、その内実と思想史的な文脈の解明を行うこと。

(2) ナイトやハイエクといったアメリカにおける「リベラル批判」の立場における市場経済評価と自由社会構想の詳細と論者間での異同の解明を行うこと。

(3) (1)と(2)の作業を前提に、経済学の領域を超えて、政治思想・政治哲学・倫理学など20世紀アメリカにおける自由社会構想の系譜における各論者の思想の歴史的・現代的含意の解明を行うこと。

より具体的には、(1)と(2)については、基礎的文献・資料の検討として、20世紀アメリカにおけるリベラル派の代表であるジョン・モーリス・クラークやリベラル批判の代表的論者とされるナイトやハイエクらの、1930年代から1960年代にかけての「自由」「社会正義」をめぐる関連テキストを同時代文脈をふまえて検討・分析した。また(3)については、ロールズを中心とした現代の自由主義・民主主義をめぐる英語圏の規範的な政治哲学・倫理学の関連文献の渉獵と検討を行った。

4. 研究成果

先にも示したように、本研究プロジェクトの経済学説・経済思想分野における特色は、第1に「自由社会構想の系譜」というアメリカ経済思想史研究における新しい主題を提示することであり、第2に政治思想・政治哲学・倫理学といった隣接領域での現代自由主義論も視野に収めるといった領域横断的なアプローチをとる点であった。

それゆえ本研究プロジェクトの成果についても、(1)20世紀前半のアメリカ経済学における対立関係についての自由社会構想という観点からの再評価、(2)20世紀アメリカを通じた自由社会構想の領域横断的な関係性の再評価、という2つの観点から示す必要があるだろう。

(1)については、主に20世紀前半のアメリカにおける経済学の展開について、政府による経済統制を志向したJ.M.クラークを中心とした制度派らの経済思想と、自由市場擁護で知られるナイトやハイエクらの経済思想などの相違や対立関係について、従来とは異なる理解を示すことが出来たことが挙げられる。

より具体的には、20世紀前半のリベラル批判の代表的論者とされるナイトやハイエクらの、1930年代から1960年代にかけての「自由」「社会正義」をめぐる関連テキストを、アメリカにおけるリベラルとしての制度派の台頭という同時代文脈をふまえて検討することを通じて、両者の相違点を自由社会構想というその思想的基礎のレベルから示し得ただけでなく、それが両者の同時代のプラグマティズム評価の相違に由来する点を明らかにすることが出来た。

この相違は、ナイトとハイエクの自由観の相違にもつながるものである。ハイエクが消極的自由／積極的自由という軸で自由について考えるのに対し、ナイトは形式的自由／実質的自由という軸で考える。ハイエクにとってプラグマティズムやその影響を受けた制度派が積極的自由に与する立場として批判対象になるのに対し、ナイトにとって制度派は、異なるタイプの実質的自由に与することになるのである。

こうして、本プロジェクトの特徴であった自由社会構想という観点からナイトらの経済思想を再検討するなかで、従来のような、保守カリベラルかといった単純かつ皮相的な対立図式に基づく理解とは異なるかたちで20世紀アメリカにおける経済学の展開を捉える視点を明確化できた。これは20世紀アメリカ経済学の思想史的理解の深化によって、一定の貢献をなし得たと主張しうるだろう。

(2)についての成果としては、(1)におけ

る経済思想内部の対立の新しい理解に基づき、より領域横断的に20世紀アメリカの自由主義理解について新しい理解を示し得たことが挙げられる。

ロールズは1971年の主著『正義論』で福祉国家的な政策に与するアメリカにおけるリベラル派の哲学的基礎を提示したとされ、逆にナイトは福祉国家的な政策に批判的な立場に与する「シカゴ学派」の始祖と目される経済学者である。本プロジェクトでは、こうした従来はそれぞれが異なるタイプの自由主義に与するとされてきたナイトとロールズの知的影響関係に注目することで、アメリカにおける自由社会構想における両者の位置づけに新しい評価を示すことになった。

具体的には、ロールズの『正義論』(1971年)の核心部分である「無知のヴェール」論や「デザート」論といった議論構成が、ナイトの思想の強い影響下にあったことに注目した。これは生まれながらの能力の差異に由来する格差の是正を肯定するというロールズの思想の核心部分が、ナイトの影響にあったということである。この点も含め、ナイトとロールズにおける市場経済の規範的評価の内実やその背景にある自由や討議をめぐる考察の共通点や相違を明らかにすることで、20世紀アメリカにおける自由社会構想の系譜について、この場合も、従来のような単純なりベラルとリベラル批判の対立とは異なる、新しい理解を提示することが出来た。

以上で示したように、研究開始当初は、20世紀前半の経済学を中心とした横のつながりへの注目が中心であったが、本研究を進めていく過程で、それが20世紀後半を含めた自由社会構想の展開にまで広げて捉える視点を得ることが出来たのは、大きな成果であった。そしてこうした視点は、本研究計画が当初から持っていた、20世紀アメリカの経済学史を他の学問領域との関連の中で捉え直すという方向性によってはじめて得られた成果といえるだろう。

本研究を通じて、20世紀アメリカの経済学者たちの「自由」理解の相違点に注意することにより、従来のような市場メカニズム理解についての学説史区分や自由市場や計画化への賛否といった政策的立場で経済学者を分類するような単純な態度を転換し、20世紀アメリカの自由主義の新たなマッピングへの道筋をつけることができたと考える。またこの20世紀アメリカ経済学の再評価は、自由主義をめぐる現代的な論議に対しても、新しい視点を付け加えることを通じて、一定の貢献を行うことが可能となるだろう。この「20世紀アメリカ経済思想の描像の転換」と「自由主義の歴史的・哲学的理解への貢献」こそが、本研究が有する最大の成果であり、今後さらに進めていくべき課題となるだろう。本プロジェクトの主題設定は、20世紀アメリカの経済思想を捉える際の固有の問題

設定としてきわめて有効であるだけでなく、自由主義の歴史的な理解という観点からますますぐれて現代的な意義を有する問題設定であったと主張しうるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 3件)

(1) 佐藤方宣「ロールズとナイト」現代経済思想研究会、2016年。

(2) 佐藤方宣「Frank Knight on Self-Interest: Why ethics cannot be reduced to “glorified economics”？」利己心の系譜研究会、2016年。

(3) 佐藤方宣「ロールズとナイト 『正義論』のなかのアメリカ経済思想」近代経済学史研究会、2016年。

〔図書〕(計 1件)

(1) 『ロールズを読む』井上彰(編)、佐藤方宣、盛山和夫、松元雅和、宮本雅也、木山幸輔、若松良樹、小泉義之、田中成明、齋藤純一、加藤晋、額賀淑郎、角崎洋平、ナカニシヤ出版、2018年7月刊行予定、執筆担当：第10章「ロールズと経済学史 『正義論』へのナイトの影響が意味するもの」、251-271頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 方宣 (SATO, Masanobu)

関西大学・経済学部・教授

研究者番号：90286609